

529ヘクタールの水源の森からのホットな情報発信

# やどりき水源林ニュース

発行 (公財) かながわトラストみどり財団 編集 (NPO 法人) かながわ森林インストラクターの会  
〒 220-0073 横浜市西区岡野 2-12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内  
☎ 045-412-2255 URL: <https://www.ktm.or.jp> E-mail: [midori@ktm.or.jp](mailto:midori@ktm.or.jp)

やどりき水源林森の案内人 (定期) 観察会のお知らせ (費用等負担はありません)

毎週土曜・日曜の午前 10 時と午後 1 時から (NPO 法人) かながわ森林インストラクターの会員が水源林をご案内します。  
やどりき水源林ゲート前までお越しください。なお、冬季 (12 月・1 月・2 月) は安全確保のため休止します。

## 季節の変化を「やどりき水源林」で楽しもう!!

### 実りの秋ももうすぐです

やどりき水源林で、夏の名残を感じつつ、秋の姿へ移りゆく森林の様子が見られます。  
木々の色づきや実りの季節の変化を楽しめる、やどりき水源林へぜひお越しください。



《木々の実も色付きはじめています》



ヤマボウシ

表面がぶつぶつした見た目ですが、赤色に熟した実は食べられ、味は甘いそうです。



サンショウ

皆さんスパイスでお馴染みの山椒の実は、赤く熟し始めています。



ガマズミ

ようやく実を付けたばかりで、これから成熟していくところ。9月下旬~10月に赤い実が見られるでしょう。



ミツバアケビ

9月~10月頃に、果皮が紫色に熟しはじめてます。果皮は炒め物にして食べることもできるそうです。

## 水源林の樹木は『草木染め』でどんな色に染まるかな!!

やどりき水源林ニュース第 223 号（2025 年 7 月）に掲載された「昔の人が木々や果実を様々な工夫で生活に取り入れてきた」の活用方法の一つである「染料」について、やどりき水源林で見られる樹木で『草木染め』をしてみました。身近な針葉樹や広葉樹が、どのような色に布を染めてくれるか、想像しながら散策を楽しんでみませんか。

### 草木染めの流れ

#### ① 染料を煮出す

草木を細かくカットして、鍋で 15~20 分程度、煮出して染料を抽出します。



#### ② 染色する

染料を 60~70 度程度に温め、布を泳がせながら 10 分程度煮出します。



#### ③ 媒染剤に浸ける

布に染料を定着させるため媒染剤に布を 10 分程度、かき混ぜながら浸けます。



#### ④ 仕上げ

布を水洗いして、よく絞り、陰干しします。



### 身近な樹木はやさしい色に染まりました!!

化学染料と比べてムラや濃淡、深みのある独特な色合いと風合いがあります。また、同じ樹木でも季節によって抽出できる色が異なるため、季節ごとの色を楽しむことができるそうです。媒染剤の種類でも色の出方も変化するよう。草木染めは 100% 自然由来で、排水による水質汚染の心配もなく現代で再評価され、SDGs の観点で注目されています。



#### スギ

ミョウバンの媒染剤は、鮮やかなレモンイエローに近い色合いです。染料を煮出すときの香りが、とてもリラックスできる香りでした。

ミョウバン

重曹

クエン酸



#### ヒノキ

ミョウバンの媒染剤は、暖かみのある「きはだいろ」に染まりました。写真は二度染めしたもので濃い色になりました。

ミョウバン

重曹

クエン酸



#### ヤマボウシ

重曹の媒染剤は、深みのある茶色になりました。煮出した染料の色も茶色で一番濃い色でした。

ミョウバン

重曹

クエン酸



#### アカメガシワ

染めの材料として昔から使用されていたそうです。全体的に「からしいろ」で一番落ち着いた色のある色合いに見えます。

ミョウバン

重曹

クエン酸

#### <10 月 やどりき水源林 森の案内人 イベントのお知らせ>

- 10 月 18 日（土） 成長の森コース : 平成 19~24 年度の「成長の森」植栽地をご案内します
- 10 月 19 日（日） 散策プラス癒やし体験 : 水源林をゆっくり散策しながら、心と体をリラックスさせましょう
- 10 月 26 日（日） 体験! 丸太切り・クラフト : 丸太を切ってコースターなどをつくりましょう